

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3471503643		
法人名	いーとも有限会社		
事業所名	グループホーム 愛の郷 駅家 (グリーンピュア あすなる)		
所在地	広島県福山市駅家町法成寺2730番地		
自己評価作成日	平成27年07月01日(水)	評価結果市町村受理日	平成27年9月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.hiroshima-fukushi.net/kohyo/index.html
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あしすと
所在地	広島県福山市平成台27-17-101
訪問調査日	平成27年7月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

街中から少し外れた田舎ですが、空気が美味しく、のんびりと過ごせます。職員ものんびりしています、気持ちが穏やかになれる事が、出来る所です。 小さいながら畑を作っています。胡瓜、トマト、ごーや、かぼちゃ、ネギなど、身近な食べ物をみんなで作り、美味しくいただきます。おいしいのひとつで笑顔いっぱいになります。そんな笑顔を見たい為に、毎日頑張っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

周囲に田園や畑があり、利用者は季節の移ろいを感じながら、穏やかに過ごすことができる。隣接の同法人の事業所と、運営推進会議や行事等を通して、交流があり、協力関係を築けており安心できる。管理者、職員は「利用者のために何が出来るだろうか」と日々考慮すると共に、一人一人丁寧に思いを傾聴している。「野菜と一緒に収穫し、喜びを感じられるよう支援している」「歌をうたうと、笑顔が見られる」と、利用者の個別性に添ったケアに努めている。栄養摂取の支援に優れており、口腔ケアに努めると共に、利用者の現在の身体状況・嚥下機能を把握し、食事の形態を変えたり、おいしく摂取できるように味を変えることなく、塩分と量の調整を行う等細やかな配慮をしている。職員同士も仲良く、信頼関係が築かれており、向上心あふれ、さらにスキルアップした事業所となるよう期待する。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	特定非営利活動法人 あしすと		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の方達と、「おはよう」「いってらっしゃい」「おかえりなさい」と、気軽に声を掛け合い、隣に寄り添う事が出来る介護を提供する	理念を玄関に掲示するとともに、ミーティング時や管理者が必要と感じたときに、職員に確認し、共有と実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	溝掃除・草刈等の環境改善作業への参加、非難訓練の参加など共に行い、日々の建物付近の掃除、草取りをしながら、落ち葉が溜まれば、畑の肥料として、声かけ交流をしている。	町内会に加入し、町の美化などに努めている。近隣の方からの野菜のおすそわけなどもあり、日常的に交流している。中学生の職場体験の受け入れもしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方達が、求めているものを提供していただき、いかせる場所・内容を検討し、対応して行く。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	評価をしてもらえる為の話題を提供し、意見をとり入れ、向上につながるよう努力する。	隣接の同法人の事業所と2カ月に1度実施している。町内会長・包括支援センター職員・利用者家族等が参加し、現状の報告と共に、双方向の意見交換の場となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営会議に参加をしていただき、意見を述べていただいている。	運営推進会議等を通して、日頃から事業所の実情やケアの取り組みなどについて伝えている。困難事例などあれば、積極的に情報を取り入れ、協力関係を築けるよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	見守り・声かけにより拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束にあたる具体的な行為について、ミーティング等で全職員と再確認をし、利用者の安全面を考慮しながら、見守り・言葉掛けなど対応方法を工夫して支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加・勉強会に参加し、言葉の虐待など、知らず、知らずに、してしまう虐待がおこらないよう注意を払い、防止に努める。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所・制度について学んでいける努力をおこない、活用できるよう努める。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に対して、文章を理解していただけるよう時間をかけ、読み上げ疑問をなくしていけるよう努める		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議を行ない、意見をいただいている。	家族の訪問時や月一度の報告時に意見や要望を聴いている。出された意見や要望は、利用者の内服薬のみかたの検討など運営に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営推進会議終了後、ミーティングにて意見の交流を図っている。	ミーティング等で意見や提案・要望を聴いている。日常の中で随時話を聴くこともあり、出された意見や提案は、管理者の判断のもと、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の声を聞き入れ、環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の為に勤務作り・声かけをおこなっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会への声かけ・交流会への情報提供をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が何を望んでいるのか、何に困っているのか、いろいろな出来事の情報収集・様子観察の記録をもとにして、コミュニケーションに努める。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の気持ち・思いを聞き入れ、少しずつ信頼関係を作っていく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要なサービスが、どこまで出来るか、対応の中で観つけていく努力をする。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事への声かけ、出来た事への感謝を表し、共に食事を食べ、挨拶を交わしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の困っている事を家族に情報提供し、家族と共に考える。月に1回、施設での状態を報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の言葉、思いを聞き取り、支援できるよう声かけをしていく様に努める。	馴染みの病院に受診したり、理髪のため家族が訪問したりと、大切にしてきた関係が途切れないよう支援している。大正琴の先生が、毎月訪れるなど新たな馴染みの関係も作っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	より良い環境づくりに励み、利用者の間に入り、コミュニケーションを出来るよう努める。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族からの相談・声かけができる様、支援ができる様努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや、意向の把握に努める努力をおこなう。	普段の会話などから思いや希望を聴き、意向の把握に努めている。困難な場合は、家族からの情報をもとに、表情やしぐさから本人の視点に立ち本人本位に検討して支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	経過の把握に努める努力をおこなう。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録・観察・本人の行動・気持ちの把握に努める努力をおこなう		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	意見やアイデアが反映しにくい為、反映できるように努力をおこなう。状況の変化があれば、その都度変更を行っている。	担当職員が利用者や家族の意見を把握した後、カンファレンス等で検討して介護計画を作成している。見直しは3か月毎で、状況変化等があれば、その都度現状にあった計画へ変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	実践や、計画の見直しができる様、場を作り、日々の様子を、記録し活かせる努力をおこなう。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員同士の情報の共有化に努め、どんな事を求めているかを注意深く観察を伴い、対応できるようつとめる努力をおこなう。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	何をおこなう事で、楽しく思っているかを、観察する努力をおこなう。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の健康状態を把握する事で、かかりつけ医師との連携を保ち、適切な医療を受けられるよう支援をしている	かかりつけ医を確認し、利用者・家族の意思を尊重した受診に努めている。主治医の往診や訪問歯科の支援があり、必要時連携している。耳鼻科・皮膚科等は職員が受診支援し、得た情報は家族へ伝え、職員間では申し送りノートで共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護しに、電話にての提供、訪問時にての情報提供を、おこなっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院側からの情報を得る事が難しく、また、家族の方も忙しくあり、個人情報としての対応のため、情報の共有が困難な場合が多くあり、広報時情報の交換をおこなっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族との情報交換を行い、出来る事を見出し、医師と共に支援に取り組んでいる	利用開始時に、利用者・家族と話し合い、事業所で出来ることと出来ないことを説明し、了解を得ている。家族・主治医・職員の連携態勢をとり、要望等があれば、随時話し合い、チームで支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急処置や、初期対応のやり方を身に付けるため研修に参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、火災訓練・非難訓練に参加している。また、地域での訓練に参加している。	昼間・夜間を想定した火災避難訓練を、年に2回実施している。(消火訓練も実施)また、消防署が主催した研修などに職員が参加し、防災の知識を得ようと努めている。	消防署の協力を経て、さらに具体的に充実した避難訓練の開催ができる事が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格の把握・体調に確認をおこない、声かけ対応をおこなっている	ミーティングや研修等で、プライバシーを損ねない言葉かけについて、職員に問いかけている。それぞれ一人一人の利用者の人格を尊重しながら、その場に応じた声掛けを工夫し、丁寧な言葉かけを心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る事、出来ない事の把握をおこない、出来た事への感謝を伝えている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	何をやりたいのか、どんな事が楽しく思われるのか、話しの中で支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来るだけ、鏡に興味を持っていただくよう支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下ごしらえ、片付けなどに声かけ対応をしている。	栄養摂取の支援のため、口腔ケアに努めると共に、状態をみながら、食事の形態や塩分・食事量を変える等細やかな配慮をしている。誕生日会でケーキを作ったり、たこやきやお好み焼きなどを目で作るなど、食事を楽しめる工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量の把握・栄養状態の把握を医師からの血液検査に伴い、一人ひとりの状態に対しての支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨き・歯ブラシ・歯磨きティッシュ対応・歯科医の定期健診をおこなっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の思い・訴えを聞き入れると共に身体の状態のはあくを、職員同士に情報共有をおこない、しえんをしている。	排泄チェック表で間隔を把握し、利用者のしぐさや表情をみながら、利用者の状態にあわせた排泄支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の記録・飲食物の工夫を、水分・食事メニュー・などを考え取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望や、声かけにより支援をしている。	おおむね週に2～3回となっているが、希望時には柔軟な対応をしている。拒否される方には、状態をみながら、声掛けやタイミングを工夫し支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠れない時の声掛け対応、状況の把握を記録として書留、気持ちよく眠ることができる様支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の把握・理解をおこない、服薬の確認と症状の変化の確認記録を努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生きている喜びを見つけ、支援ができる様日々の記録を元に支援をできる様努力をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	外出ができる様、希望を把握し支援できるよう努力をする。	気分転換のため、日常的にドライブや季節の花見・買い物などに出かけている。誕生日のプレゼントとして、利用者の希望を聞き、おすしやファミリーレストランなどに外食に出かけることもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	声かけ対応をおこない、時には、家族の協力の元に支援をおこなっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により取り組み支援をおこなっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	場所の確保・椅子や、ソファの配置の工夫をおこなっている。	玄関やリビングには絵や季節を感じさせる作品などが置かれている。空気の淀みもなく、光・温度・音が適切に管理され利用者が居心地良く過ごせるよう、工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室への配慮・工夫をしていく努力をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が、大切に思っている物の配置・大切に思っている人への工夫をしている。	利用者の身体状況に合わせ、物の配置や畳で過ごせるようにするなど安全面に配慮した居室となっている。また、利用者の思い入れのある品や使い慣れた物を持ち込み、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	どうやりたいか、何を求めているのかを聞き、出来る事を確認し、出来ていなくても気持ち強く持ち続けられるよう、声かけへの工夫をしている。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	13	火災避難訓練を実施しているが、内容的な向上をあまり考えておらず、現場の実践に基づく意識の向上を考え、実行する。	消防署の人達と共に知識の向上を図り、具体的な行動を伴う充実した内容を計画し、実行する。	消防職員さんと共にどのようなことが大切であるかを尋ねながら自ら気づき上げ、行動する。	6ヶ月
2	18	戸外へ出かける支援について入居者の方たちも高齢になり、思うような行動が出来ていない。	ボランティアの方たちのおかげで楽しく過ごされていることもあるが、いろいろなボランティアの方に声をかけ、来てもらう。笑顔で一日過ごせるよう努力する。	専門学校、保育所、地域に声をかけ、行事を計画する。	12ヶ月
3					
4					
5					

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。